

木	1	先負
金	2	仏滅
土	3	大安
日	4	赤口・立春 休日営業16時まで
月	5	先勝
火	6	友引
水	7	先負
木	8	仏滅
金	9	大安
土	10	赤口 華乃会発会記念茶会
日	11	先勝・建国記念日 華乃会発会記念茶会
月	12	友引・振替休日 定休日
火	13	先負
水	14	仏滅
木	15	大安
金	16	先勝
土	17	友引
日	18	先負 休日営業16時まで
月	19	仏滅・雨水
火	20	大安
水	21	赤口
木	22	先勝
金	23	友引
土	24	先負
日	25	仏滅 定休日
月	26	大安
火	27	赤口
水	28	先勝

月刊ギャラリーさん

出会いふれあい 全国茶の湯紀行 第29回は【遠州七窯志戸呂焼】です

志戸呂焼 耳付火入



静岡県島田市金谷は、昔この一帯が「遠江国質侶庄金屋郷」と呼ばれる朝廷の御料地で、その地名から志戸呂焼(しどろやき)と名付けられた。志戸呂焼の歴史は古く、この一帯では12世紀前半(平安時代)から13世紀後半(鎌倉時代)には山茶碗などが焼かれており、きつね沢古窯等が発掘されている。16世紀後半の天正10年(1582年)に駿河国を領有した徳川家康公が美濃久尻の陶工・加藤庄右衛門影忠(後に五郎左衛門と改名)を招いたり、尾張瀬戸地方の陶工の移住によって、志戸呂焼の生産が本格的に行なわれ

たと考えられている。その後、寛永年間(1624~1643年)に将軍家の茶道指南であった小堀遠州公が好みの茶器製作の御指導をなされ、すぐれた茶入・水指・茶碗・花入などが焼出された。現在、金谷地区には、利陶窯など志戸呂焼を伝承する窯元が六箇所ある。

遠州七窯は志戸呂焼・膳所焼・朝日焼・赤膚焼・古曾部焼・上野焼・高取焼 『本邦陶説』では古曾部にかわり伊賀焼が挙げられる。



現在ご活躍の遠州志戸呂 利陶窯

The お道具拝見 毎月ひとつのお道具に注目します

ほうしゃくまさかず

【日本工芸会正会員 宝積正一 阿弥陀堂釜】です

1942年 香川県生まれ

1962年 角谷沙村に師事・平成13年日本工芸会近畿支部奨励賞受賞

ちょっといづく「マメ知識」

日本工芸会正会員について

公益社団法人日本工芸会は、重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)を中心に伝統工芸作家、技術者等で組織する団体で現在、工芸分野重要無形文化財保持者59人中、日本刀、手漉すき和紙等分野を除く48人を含め正会員約1,300名が所属しています。同会が文化庁・NHK・朝日新聞社と主催する日本伝統工芸展は、昭和29年から年一回毎年開催しています。日本伝統工芸展は、文化財保護法の趣旨にそって、歴史上・芸術上価値の高い工芸技術を保護育成するため開催される最大規模の公募展で、2016年眞子内親王殿下が日本工芸会の総裁に御就任された。入選作品は、9月~翌年3月にかけて、全国12会場で披露され、今を生きる日本の工芸作家の美しい作品を堪能できる。出品資格は問わず、どなたでも出品できます。(^^)本部は東京国立博物館構内。日本工芸会HPより

会員様限定 お茶会のお知らせ

「華乃会」発会記念茶会

ギャラリー森田 二階「松華軒」 午前九時~午後四時

2/10(土) 11(日)



新年号 季節のお買得商品

☎ 0598-21-3178



中村能久 仁清春野茶碗
¥32,000→¥22,000



中村良二 掛桜茶碗
¥20,000→¥14,000



福本未来 辛夷(こぶし)茶碗
¥14,300→¥10,000



新井京華 立つぼすみれ茶碗
¥10,300→¥7,000



唐草蒔絵朱高坏
ワンプライス ¥5,200



桜蒔絵雪輪干菓子器
ワンプライス 各¥1,200



中村良二 象香合
28,600→¥20,000



喜多庄兵衛 淡々斎好写モール梅松蓋置
28,600→¥20,000



中村宗悦 誰袖蒔絵大棗(訳あり商品)
¥63,800→¥44,000

.. 編集の窓 ..



大宰府政庁跡の梅

photo by SA

中国原産 奈良時代の遺物使または遺唐使が中国から持ち帰ったといわれている。万葉集の頃は白梅が平安時代になると紅梅がもてはやされた。万葉集では梅について百首以上の和歌が詠まれており、植物の中では一萩に次いで多い。「鶯宿梅」(おうしゆくばい)とはこんな故事から村上天皇の御代、清涼殿の前の梅が枯れたので天皇は代わりの梅の木を採らせ西京のある家から掘り取らせてきたが、木の枝に勅なれば、いともしし鶯の宿はと問はばいかが答へん(まことに恐れ多いのでこの梅の木は献上仕ります。しかし、毎年この木を訪れる鶯が「私の宿は」と問うたのならばどう答えればよいのでしょうか)という歌が結び付けてあった。歌の心を知ると天皇は不思議に思われて『何者の家か』と尋ねたところ、その家の主が紀貫之の娘、紀内侍であったことを知り、深く感じ心残りなことをしたと思いき、すぐにこの梅の木を元の屋敷に返したという

梅 鶯宿梅

ご案内

当店で、皆様にお抹茶を楽しんで頂けるようお持ちしてお待ち。近くにお越しの際は気軽に遊びにいらして下さい(女性スタッフより)

facebook Instagram

月刊「ギャラリーさん」編集プロジェクト

Instagram 始めました

月刊 いつもの



(題字・三輪休和)

祝 100号

2018年2月発行

いつも月刊ギャラリーさんをご覧いただき誠にありがとうございます。この度2009年9月に創刊以来100号を發行することもになりました。これからも「お客様のお役にたてる情報誌」としてお手元に届くよう編集させていただきますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。月刊ギャラリーさん編集スタッフ一同

